

会報
通刊74号

熊本県日中協会

～さらなる友好の絆を～

平成21年
8月発行

＜発行＞
熊本県日中協会
会長 柏木 明
＜事務局＞
〒860-0846 熊本市城東4-2
熊本ホテルキャッスル2F
Tel096-356-4847
Fax096-325-2829



平成21年度の総会会場（熊本ホテルキャッスル）



柏木明会長

平成二十一年度の熊本
県日中協会総会が七月十
日、熊本ホテルキャッスル
に七十人が出席して開か

会運営の充実・強化へ 平成二十一年度総会新事業など可決

柏木会長が、孫文と宮
崎滔天との交友など、協
会設立の趣旨を説明。来
賓祝辞で県知事代理の
兵谷芳康・副知事が「日
中交流は益々盛んにな
っており、経済、文化な
ど幅広くなっているこ

れました。

とを期待します」。

また、駐福岡中国総領

事館の郭宝忠・首席領事
が「中日交流の発展に貢
献された貴協会・会員に
感謝しますとともに、中
国建国六十周年、来年の
上海万博と、事業への多
大なご協力・ご支援に御
礼を申し上げます」。

第五代会長の潮谷義

子氏もあいさつ。米満弘
之常任理事の議長で議
事に入り、昨年度の事業
報告と決算報告、監査報
告を承認。新年度の事業

計画、予算案では収入の
減少が見込まれるため、
事業の拡大や、会員の勧
誘などが提示され、了承
されました。

新副会長に早川氏

新年度役員選任に入
り、副会長に早川英明氏
（日中友好県議会議員
連盟会長）、常任理事と
実行協力部会長に青柳
英幸氏（県レクリエーシ
ョン協会会長）、ほか九人の
新役員が満場一致で選
ばれました。

総会終了後、重光産業
の重光克昭社長が「味千
拉麺の展開」に詳細は2
頁に紹介Ⅱで特別講演。
懇親会に入りました。

平成21年度事業計画 主なもの

- ① 日中交流の推進事業
- ② 会報の発行
- ③ 会員拡大と部会活動の推進
- ④ 第二十八回春節祝賀会の開催
- ⑤ 訪中団の派遣
- ⑥ 中国日常文化の紹介
- ⑦ 県中国残留孤児等対策協議会への協力

県日中協会企画・主催の新事業

10月19日(月)～23日(金)
世界遺産・泰山と曲阜

訪
中
団

10月18日(日)14時
パレア熊本10階

「中国講演会」

詳細は4面(最終面)をご覧ください

日中友交・渾河農友訪中を踊りで歓迎する現地の人々たち



私はこれまで二十回訪中、いつも父の形見の腕時計をして、亡き父と一緒に訪れます。

渾河で今も農業交流 開拓団二世会 ～理事・岩下俊一氏の講演から～

昭和二十一年には農業指導の五家族を残してやむなく帰国。その後国交正常化と同時に二世会が発足、一時途絶えた渾河農場との交流が始まりました。恩返しのため、同農場関係者を日

終戦で帰国

父は昭和十五年、農神・松田喜一先生の勧めで瀋陽（旧奉天）近くの渾河付近に開拓団長として入植。第三次まで五十九戸は東洋一の農場を目指すも終戦。

終戦直後、日本の軍隊を一時開拓団に収容したり、同胞難民を食料援助したり、当時の思い出を胸に、父亡き後の交流を続けています。

詩歌吟唱会で日中交流



「出会い」のお陰

メニューにも日本食

重光社長
講演要旨

重光産業の重光克昭社長の県日中協会総会での講演要旨は以下の通り。

味千拉麺は一九六七年に創業、現在は国内に一



重光社長

〇五、海外三九四の店舗先代社長が造ったものを展開しています。うち未だに輸出しています。中国は三〇七、香港三三三この間の香港の青年実業店舗。上海の工場からス家らとの出会いのお陰でープを供給していますが店舗展開の拡大が実現できました。

中国人は三十分以内では帰りません。ゆっくりくつろげるラーメンレストランの位置づけを目標にしています。類似店舗（ニセモノ）の出現には驚きました。

現地の食生活に合った品揃え、メニュー構成、そしてテーブルに沢山の品を載せることで中国人の心を引き寄せました。焼き鳥などの日本食を採り入れ、日本の食文化の紹介も。



農場を視察する元開拓団員中央（帽子）が岩下俊一氏

本へ招いての農業研修や、幼稚園建設の資金を寄付したり。友好協力の成果が実って、今では同農場も発展の一途をたどっています。

当時開拓団一八〇

多くの開拓団が悲惨な目に遭った中で、渾河開拓団は別でした。住民に「帰るな」と引き止められたり、帰国の際は馬車五十台で駅まで送ってくれたりの温かさでした。

お蔭様で創立50周年を迎えました。



熊本保健科学大学
Kumamoto Health Science University

TEL 096-275-2111(代) 〒861-5598 熊本市和泉町325 JR鹿児島本線西原駅
<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

職業技術学校の生徒と有江俊博氏(前列中央)



三月一日から一カ月間中国最南端の海南島合本語教育に行きました。同省政府の依頼で同島の五指山市職業技術学校へのボランティア授業です。

少数民族と自然と

海南島で日本語指導

県中対協専務理事・有江 俊博氏



今なお原始的な生活をしているリー族の「初保村」の穀物倉庫

担いでいるのはパショウ → バナナより栄養がある。



↑ おやつのココヤシを採りに木に登るリー族の少年。



海南島の位置



熱帯植物と野鳥の楽園
珍しい小鳥がたくさん



いかにも熱帯の爬虫類 → 真っ赤な頭のトカゲ

二十四時間指導

学校は最南端リゾート地から北に車で二時間の奥地。国家一級貧困地域指定区のため、授業料や食費などすべて無料。観光、パソコン、自動車整備などの専門コースがあり、平均年齢は十八歳。

日本語の授業を特別に組み入れた時間割は二年生の二クラス五十名に週六時間、合計二十四時間指導。幸い、昼食と昼寝に三時間あったのでゆっくり休めました。

海南島は九州とほぼ同じ大きさで人口は八百万人。年間の平均気温は二十七度、三月なのに連日三十度以上の熱帯です。

共通語は海南語

共通語は海南語で、漢語、リー語、ミャオ語が飛び交います。海南島はゴヤシの島で、パイヤ、マンガ、バナナの熱帯果物が間近にみられます。宿泊した私の部屋は裸の木の間と古い机が一つあるだけです。

夜、ヤモリが出没

夜になると、部屋にヤモリが出没して大きな声で鳴くので、一日も消灯して寝たことはありませんでした。

食事は給食担当のご夫婦が特別メニューを作ってくれましたが、やはり油濃い料理で、箸で掴めないポロポロのお米には閉口しました。

授業は皆熱心で、最後の日、日本語で自己紹介を書かせたら、大半が平仮名も書けるようになっていたのには感心しました。四月一日、帰国の日生徒たちは授業を中断して見送ってくれました。

To Find The Future

"未来を見つける"ための大学です。

崇城大学

工 学 部

機械工学科 ナノサイエンス学科 エコデザイン学科
建築学科 宇宙航空システム工学科

芸 術 学 部

美術学科 デザイン学科

情 報 学 部

情報学科

生物生命学部

応用微生物工学科 応用生命科学科

薬 学 部

薬学科

〒860-0082 熊本市池田 4-22-1 TEL.096-326-3111 (代表) <http://www.sojo-u.ac.jp/>

広州市に共同研究センター設立



共同研究センター前にて 左から4番目が高野正博氏

高野病院「大腸肛門病」で中山大学と

二〇〇九年六月十二日、医療法人社団高野会と中国広州市中山大学附属第六医院・附属胃腸肛門医院との共同研究を正式に行う協議が成立しました。

中山大学附属病院第六医院の創立は、一九二五年、ソビエト連邦と中国共産党により、孫文のためにモスクワ中山大学として設立され、今では中国で第二の規模を

有する医学大学となっています。

二年前に院長に就任した中山大学附属病院第六医院の任東林先生は、十年前に高野病院で研修を受けた先生で、今後骨盤底機能障害の研究センターを設立し、高野会（高野正博会長）と

共同研究を行い、より専門性をもった医療機関に発展させたいとの希望がありました。

話 曹操 曹操 就到

噂をすれば影

（曹操の話をすれば曹操が来る）

中国のことわざ

そこで、両国の大腸肛門病の骨盤底機能障害並びに大腸癌の診断・治療および予防の観点から共同研究を行うことになりました。

共同研究の内容は、次のようなものです。

- 一、仙骨神経症候群の基礎研究、臨床的診断と治療
- 二、直腸肛門の機能障害の cure & care
- 三、大腸がんの治療と基礎研究

平成21年10月19日(月)
～23日(金)

コース:

歴代皇帝ゆかりの泰山、
孔子のふるさと曲阜。
いずれも世界遺産で、
ほか山東省をめぐる旅です。

費用: 13万5千円以内
(10人以上催行)

締め切り: 9月18日(金)

旅行主催: 西日本日中旅行社

訪中国「二大世界遺産の旅」

ご案内

奮ってご参加ください

平成21年10月18日(日)

午後2時～同3時半

パレア熊本10階(第7会議室)

(鶴屋百貨店東館)

演題: 「中国を知ろう」

講師: 上拂 耕生氏

(うえはらい こうせい)
熊本県立大学総合管理学部
准教授。法学博士。

講演資料代: 1,000円

定員: 約50人

県日中協会「中国」講演会

お問い合わせ、お申し込みは協会事務局へ (356-4847)

編集後記

カラー化、縦組みに紙面刷新して、今回が四号目。目ざす理想へわずかながら前進してはいます。

しかし、情報収集の限界にいつも直面し、「より広く、より多く」の紙面展開には程遠いのが現状です。

紙面刷新をスタートさせただけでもよしとするか。自問自答しながらも、また、先を見つめ直し、多くの会員が参加できる紙面への知恵、工夫はないか、悩みは尽きません。

短いニュース、旅の思い出、お知らせなど協会事務局までお寄せください。お待ちしております。

(機関紙編集委員会

小串 照彦)